



モーツァルト室内管 門良一指揮「イドメネオ」

はあまり
耳にする
機会がな

いよいよモーツァルト
生誕250年の年が明
つ、大阪でも早々に興味
深い企画が登場した。上
演時間3時間以上にも及
ぶオペラ・セリア「イド
メネオ」が、演奏会形式
ながら、関西の精鋭歌手
を集めて上演されたのだ

音楽評

(9日、大阪・いずみホ
ール)写真)。

オペラ・セリア(正歌
劇)は、ギリシャ・ロー
マ神話や聖書といった題
材に対するなじみの薄さ
や上演時間の長さから、
モーツァルトのものとい
えども、これまで関西で
の姿をも見事に描き出し

断。

結果的に上演は素晴ら
しい成果を収めたが、成
功の大きな鍵を握ったの
が題名役を担った畑儀文
の好唱。クレタの王イド
メネオの凛とした気品や
厳しさが随所に漂うだけ
でなく、その表現は隅々
まで練り上げられた濃や
かさ

かさと陰影にあふれ、王
子を生け贄にささげねば
ならなくなった悩める父
の姿をも見事に描き出し

濃やかさと陰影にあふれ



て感動的。

加えて王子イダマンテ
を演じた野間直子も、イ
ダマンテを慕う王女イリ
アを歌った石橋栄実も実
力を遺憾なく発揮。モー
ツァルトの音楽にしか聴
けない豊かな情感に満ち
た清々しさや凛々しさを、
心行くまで堪能させ
てくれた。また津山和代、
田澄など、他のキャスト
も役柄の質を十分に引き
出す好演を展開し成功に
大きく寄与した。

門良一指揮するモーツ
ァルト室内管と記念合唱
団も、さらに引き締まっ
た響きや緊張感が、それ
にピリオド奏法に対する
意識がほしい所も無くは
無いが、全体としては長
丁場を誠実、丁寧に仕上
げ、門もこの大曲を手際
よくまとめ上げた。

しかし何と言っても主
役はモーツァルト。その
音楽には至る所に天才的
閃きが満ちている。こ
の1年、素晴らしいモー
ツァルトの音楽に出会え
ることを予感せずにはい
られない、幸先の良い演
奏会となった。

二塚直紀、松本晃、木川
(中村孝義)大阪音楽大
学教授・音楽学)